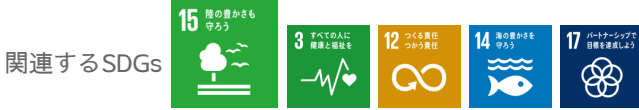


生物多様性



YKK APでは、YKKグループ環境ビジョンで掲げている「自然との共生」に向け、事業活動のライフサイクルにおいて、生物多様性の損失、影響、負荷を止めるための取り組みを推進しています。

方針・考え方

社会的背景

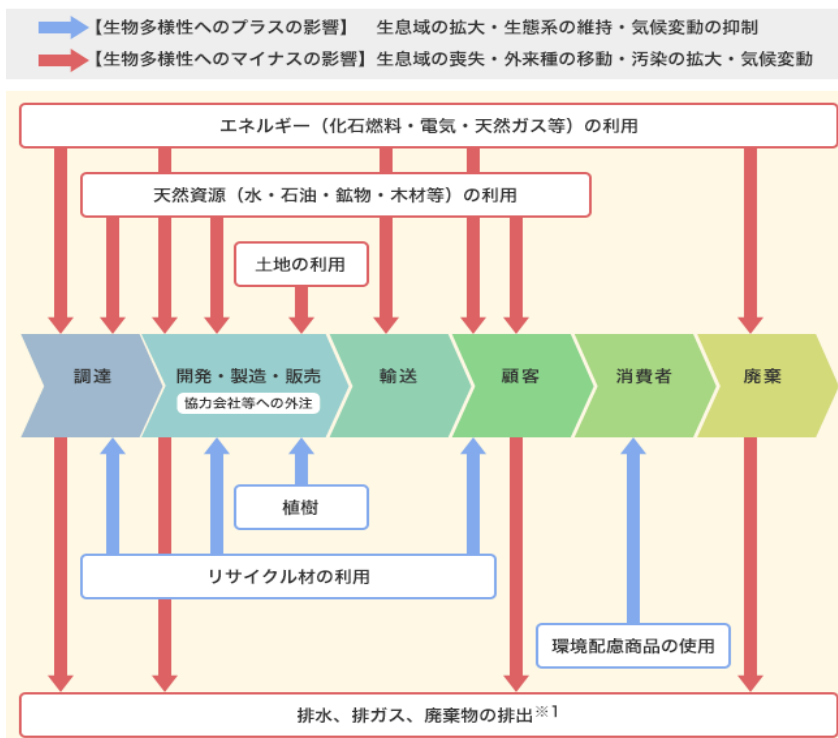
1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた地球サミット（環境と開発に関する国際連合会議）において、「気候変動枠組条約」と共に「生物多様性条約」が国際条約として合意されました。「気候変動枠組条約」では企業から多量の温室効果ガスが排出されていることから、早くから各企業は排出量の削減などに取り組んできました。一方、「生物多様性条約」では企業との関係が見え難いことから、国や自治体が主に取り組んできました。しかし、2010年名古屋で開かれたCOP10に向けて作成された報告書「生物多様性と経済学」において、生物資源や土地の利用、水や大気の浄化など、企業は生態系から多大な恩恵を受けており、生物多様性の損失は重大な経済危機を招く危険性があることが報告されました。これを受け、一部の金融機関の中では生物多様性に関連したファイナンスの取り扱いを始めました。また、生物多様性の浸透に伴い、消費者の企業に対する期待は年々高まると共に、監視の目も厳しくなっています。

また、SDGsの達成に生物多様性は深くかかわっており、解決すべき課題の明確化が求められています。

YKK APの目指す姿

YKK APの事業活動も生物多様性の恩恵を受けて成り立っています。事業活動の中で生物多様性へプラスとなる取り組みを進めると共に、マイナスとなる影響をできる限り小さくしていくことで、持続可能な社会づくりへ貢献していきます。多くの課題の中でも「自然との共生」を意識し、有害性の高い化学物質の使用、排出を削減し、安心・安全な商品の提供及び周辺環境との調和を目指して行きます。

事業活動と生物多様性の関わり



※1 法律の環境基準は人の健康保護の基準であり、生物への影響は考慮されていない

以下の各段階においてそれぞれガイドライン、指針を設け、生物多様性への影響を最小化します。

調達段階	調達先に対して、「 YKK APグリーン調達ガイドライン 」、「 YKK AP化学物質管理指針 」を配付し、生物多様性に対する考え方を共有
開発段階	製品構成材料中の有害化学物質含有チェックおよび再生・持続可能な資源の利用を推進
製造段階	製造で使用する有害化学物質の削減、外部への排出を抑制
使用、廃棄段階	地球環境負荷を低減するエコプロダクツの拡販、普及

環境長期ビジョン

YKK APでは、生物多様性条約における国際戦略並びに第10回締約国会議（COP10）における戦略計画2011-2020と愛知目標を踏まえ、2050年までに「自然と共生する世界」を実現するためグリーン調達の実施、有害物質の使用・排出の削減、環境負荷低減商品の開発、提供を行います。

YKK APにおけるリスクと機会

	短期	長期
リスク	工場からの有害物質の排出等による周辺生態系の影響	工場周辺の開発による緑地の減少、自然環境の破壊などによる周辺環境や生態系への影響 化学物質摂取による健康被害
機会	環境配慮型商品の開発、販売、拡販	サプライチェーンを含む生物多様性活動の推進による地球環境負荷低減、事業活動の継続

2020年度の取り組みと課題

【評価】○：達成、△：一部未達、×：大幅未達

テーマ	目標・活動内容	2020年度結果	今後の課題
PRTR法対象物質の排出量削減（国内）	2013年度比で27%削減	○ 32%削減	更なる削減、代替化技術の調査、検討
サプライチェーンとの協働	サプライヤーへのヒアリングの実施 六価クロムフリー	△ コロナ影響で訪問 を見送り	サプライチェーンとの情報共有、連携強化
緑化活動	国内外主要拠点で緑化活動を実施	○	周辺環境や生態系への影響

商品

化学物質管理

商品の六価クロムフリー

有害化学物質の代替化の取り組みの一つとして、六価クロムフリーに取り組んでいます。従来六価クロムを含む薬剤を用いる化成皮膜処理は高い性能・安定性を持つため広く採用されていました。しかし人体への有害性、環境負荷の観点から削減の取り組みが行われています。YKK APでは材料、部材、部品について六価クロムフリー化することを目標とし、特に部品についてはサプライヤーにヒアリングを行い、課題を抽出し2024年度末までに100%六価クロムフリーを目指します。

モノづくり

自然との共生

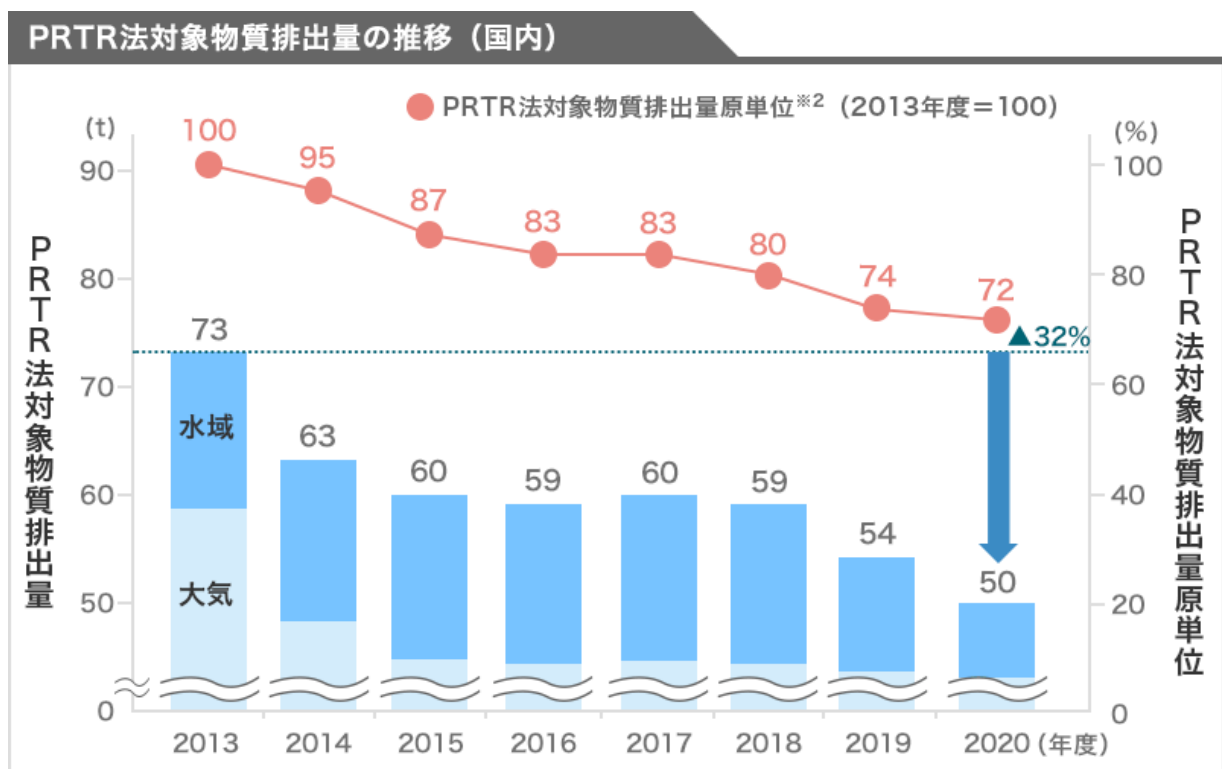
PRTR法^{※1}対象物質の環境排出量削減（国内）

YKK APでは国内工場の化学物質の使用量および排出・移動量を把握し、削減に向け取り組んでいます。

2017年度～2020年度の最終目標として、2020年度はPRTR法対象物質の排出量を2013年度比27%削減することを目標とし、月次単位での管理や排出量内訳の詳細分析、運用改善を行ったことで2020年度は排出量実績50 tで、2013年度73 tに対して32%削減となり、目標達成となりました。

2021年度は、脱溶剤での塗装の検討や月次単位での管理、排出量内訳の詳細分析、運用改善を継続し、排出量を削減していきます。

※1 特定化学物質の環境への排出量等及び管理の改善の促進に関する法律



※2 出荷高当たりのPRTR法対象物質排出量

緑化活動の推進

緑化活動においては、海外を含む各拠点において植樹等を行い工場や周辺の地域の緑化整備を実施しております。



植樹の様子（大連社）



植樹の様子（台湾社）

海の豊かさを守る活動

海洋ごみを減らすためには、海だけではなく、陸（街）から川を伝って海に流れ出るごみを防ぐことも重要だと言われています。

YKK APでは「海ごみゼロウィーク^{※3}」に賛同し、2020年9月24日～10月24日に開催した「SDGs月間^{※4}」にあわせて、海の豊かさを守ることを目指して清掃活動を実施しました。国内の各製造所・工場・営業拠点において、新型コロナウイルス感染防止対策にも十分に配慮しながら、最寄りの海岸・河川、拠点周辺の道路・公共施設の清掃のほか、自治体の清掃イベントへの参加、個人での清掃など、さまざまな方法で取り組みました。1ヵ月間の合計で32拠点・2,301名の社員が清掃活動に参加し、可燃ごみ・不燃ごみを合わせて2,165袋を回収しました。

※3 日本財団と環境省が共同で推進する海洋ごみ削減のための清掃活動であり、強化期間には「海ごみゼロウィーク」として全国一斉清掃キャンペーンが行われています。

※4 YKK APでは、9月24日（清掃の日）からの1ヵ月間に「SDGs月間」を開催し、SDGs達成に向けた取り組みを強化しました。



黒部越湖製造所の清掃活動



九州製造所の清掃活動